

特集

再考 防災文化

日本は災害大国といわれる。堤防が決壊すると浸水してしまう低地に人口の約50%が住み、資産の75%が集中しているからである。古くから治水に投資しつづけ、また幾度ももの災害を乗り越えることで、地域特有の備えや知恵も生まれた。

かつて水害が常態化していた時代、人々は水害を「わがこと」と捉えていたはずだ。河川改修などが進み水害は減ったが、それによって水害を始めとする防災への意識が薄れてしまったのではないか。

従来の観測記録を上回る短時間強雨が増え、台風も巨大化する兆しがあるなか、今こそみんな（社会全体）で備える必要がある。各地のさまざまな取り組みを見つめることによって、日本人の水害への備え、さらにそれを通じて、これからの防災について考えてみたい。

目次

巻頭エッセイ

- 2 ひとしずく 都市と水流と人の暮らし 小林紀晴

特集 再考 防災文化

- 6 総論（防災） 災害列島に住む日本人に求められる心構えとは？ 林 春男
10 総論（水防） 「水防災」の意識を取り戻す社会へ 小池俊雄
14 CASE1【再興】 60 有余年の時を経て役目果たした「量」の堤防
18 CASE2【都市型】 近隣住民を巻き込み楽しみつつ備える町内会
22 CASE3【多重防御】 「水上げ小屋」に見る地域に根づいた水防の知恵
26 水の文化書誌 52 日本の水害とその減災を考える 古賀邦雄
33 CASE4【伝承】 土砂災害を風化させない「まんじゅう」配り
36 CASE5【教育】 平成の水害を将来へ活かす一人ひとりの防災行動計画
40 文化をつくる 防災仲間——新たなコミュニティの可能性 編集部

連載

- 41 Go! Go! 109水系 17
躍動するプレートに文化を刻む狩野川 坂本貴啓
46 魅力づくりの教え 13
日南二都の文化プラットフォームと異文化の風
宮崎県日南市 油津・飢肥 中庭光彦
50 センター活動報告
51 編集後記／ご案内
（敬称略）

東京の東部を流れる中川と新中川の分岐点（提供：葛飾区）